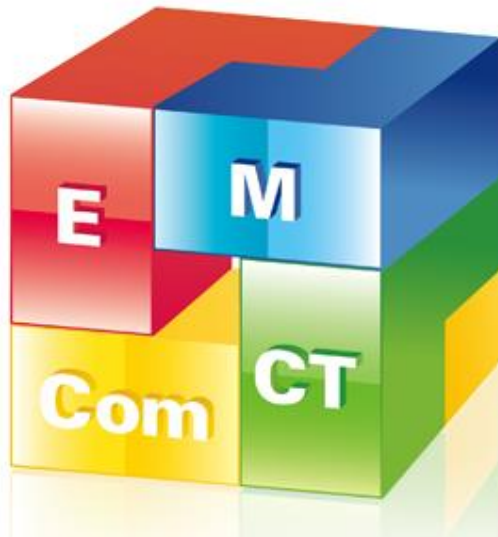


2018年3月期連結決算説明資料

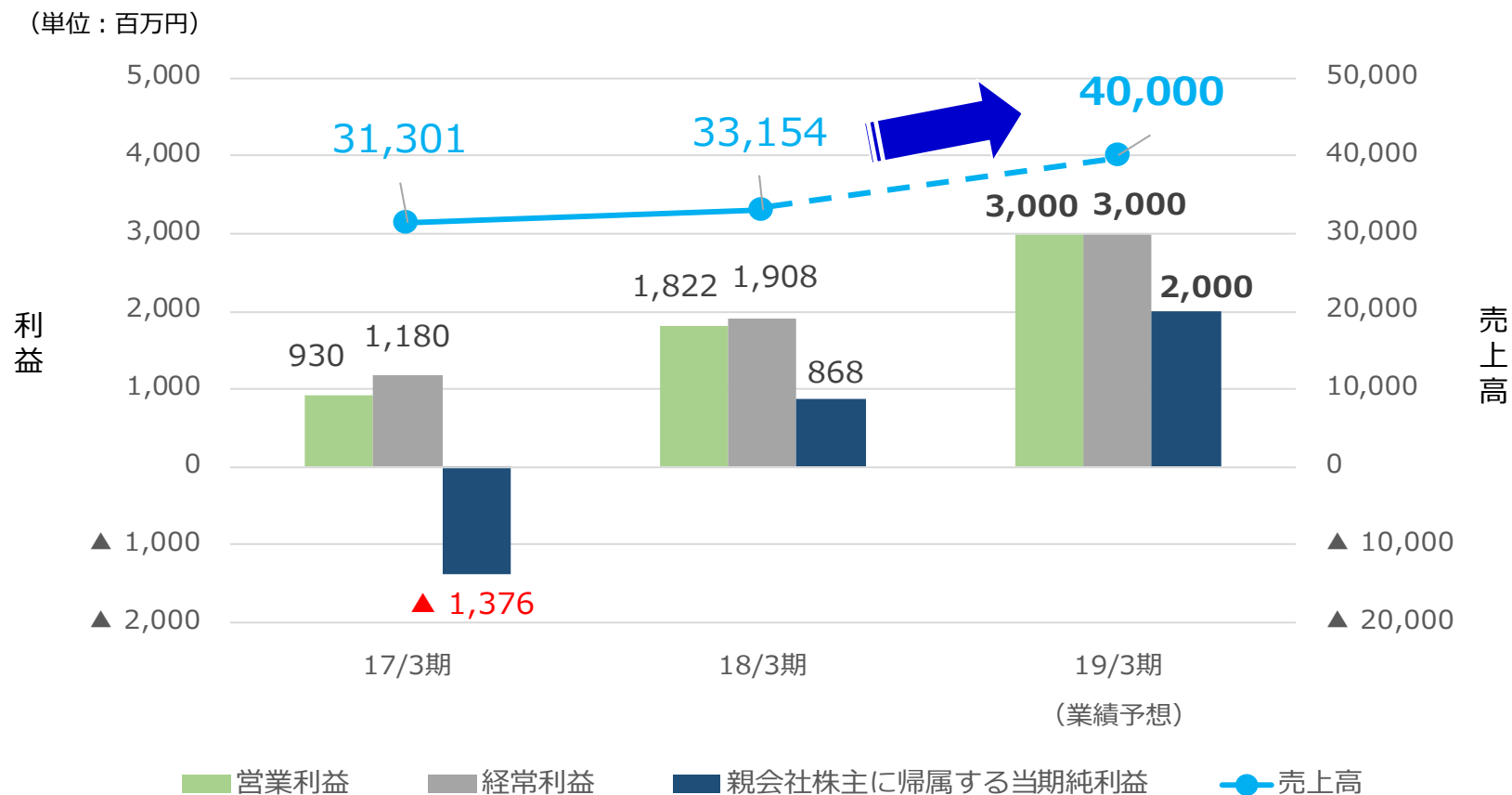
Our Technologies Realize Your Dreams



80th
Anniversary

2018年5月25日
オリジン電気株式会社

連結業績概要



- 18/3期の売上高は、メカ事業の減少を他事業がカバーし増収
同利益は、原価低減及びコストダウンに努めた結果増益
- 19/3期はメカ事業のMDB受注獲得等により、前期比で増収増益の予想

19/3期重点戦略

➤ 新規分野開拓（将来への種蒔き）

- ・ケミ（事）：産業機器向け「**放熱塗料**」、情報家電・光学向け「**速硬化塗料**」等
- ・コンポ（事）：車載・家電向け「**小型高トルクリミッタ**」等
産業機器向け「**SiCモジュール**」等
- ・メカ（事）：車載・産業向け「**DB**」、LED・パワーデバイス向け「**VSM**」等
※DB:Display Bonder、VSM : Vacuum Soldering Machine
- ・エレ（事）：スマエネ向け「**蓄電システム**」等

➤ ものづくり力の強化

- ・ケミ（事）：**拠点の再編成**
- ・コンポ（事）：**大量生産体制及び外部生産体制の強化**
- ・メカ（事）：**マルチエンジニアの育成**
- ・エレ（事）：**主要製品コスト低減による競争力強化**

世界に通用する技術で未来を創出

商号変更 (定款変更議案可決が条件)

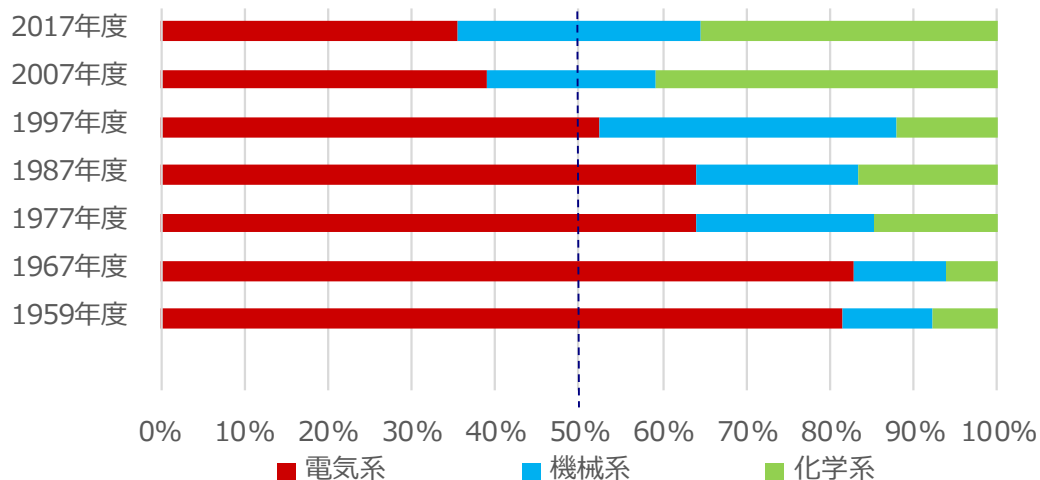
従来の電源機器や半導体の領域を超えて大きく進化・拡大していることから、このたびオリジン電気株式会社の商号を「株式会社オリジン」へ変更することとしました

事業の変遷

- ・ 1938年に電気炉、亜硫酸銅整流器の製造、富士電炉工業として東京で創業
- ・ 整流素子の開発、配電盤の製造事業へと移行、電話網整備計画とともに事業を拡大
- ・ 1952年に社名をオリジン電気に変更
- ・ 1955年に溶接機、1957年に合成樹脂塗料、1961年にベアリング製造と、電源機器や半導体の開発で培われた多様な要素技術をベースに新規事業を発足
- ・ 現在はエレ事業、メカ事業、ケミ事業、コンポ事業で展開

変更予定日

- ・ 2019年4月1日



連結売上高割合 (参考)

商号変更 (定款変更議案可決が条件)



世界に通用する技術で未来を創出

Our Technologies Realize Your Dreams



人をつくり 物をつくり 富をつくる

「開かれた企業」「独自性ある企業」「自己実現の場である企業」

おかげさまで80周年を迎え
来年4月1日、オリジン電気株式会社は

「株式会社オリジン」へ



旧日本社工場跡地の現況

- 土壌交換は順調に推移し、2017年11月21日に終了
- 2年間に亘る地下水のモニタリング（全8回予定）のうち、1月及び4月の2回を完了



連結業績

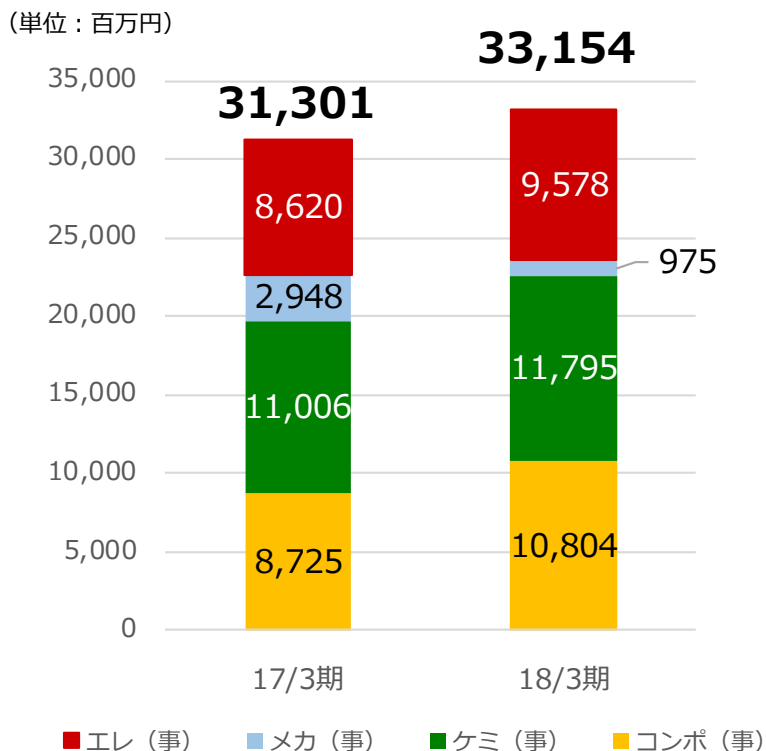
(単位：百万円)

	17/3期	18/3期	前期 増減率
売上高	31,301	33,154	5.9%
営業利益	930	1,822	95.9%
経常利益	1,180	1,908	61.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 1,376	868	—
		(単位：円)	
1株当たり当期純利益	▲ 206.58	130.62	

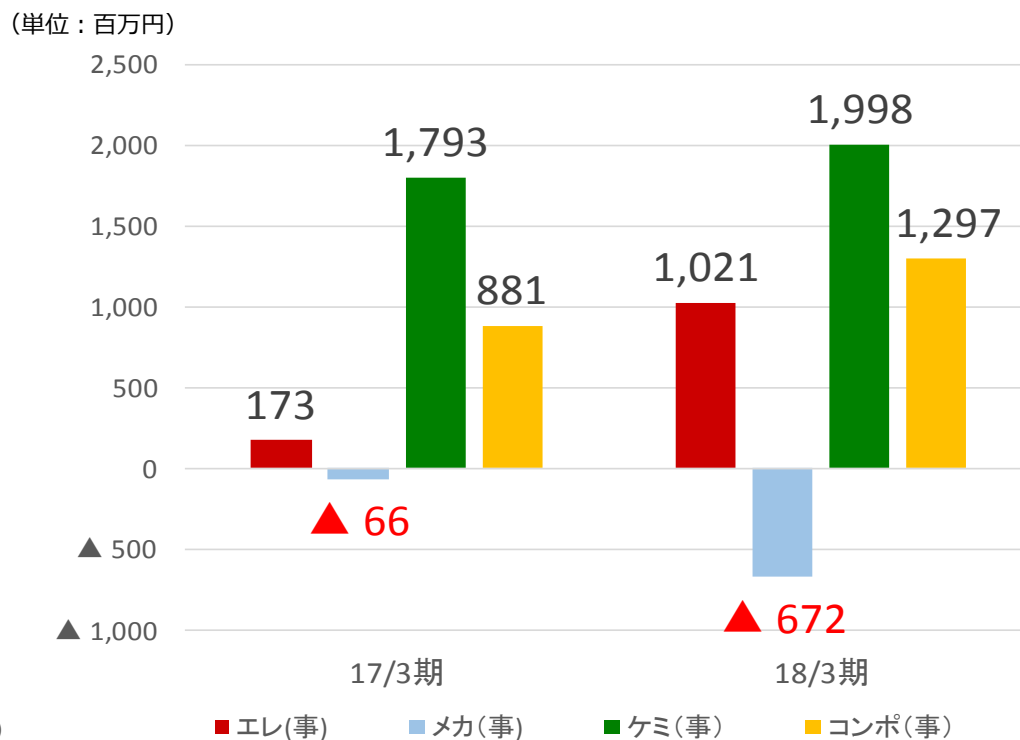
- 売上構成の変動に加え国内外グループ全体で原価低減、コストダウンに努めた結果営業利益及び経常利益において前期比大幅増
- メカトロニクス事業において、第2四半期に主力製品のMDBの売上減少に伴い、固定資産について帳簿価額を回収可能額まで減額し、267百万円の減損損失を特別損失に計上

セグメント別連結売上高及び利益 (全社費用配賦前)

連結売上高



セグメント利益

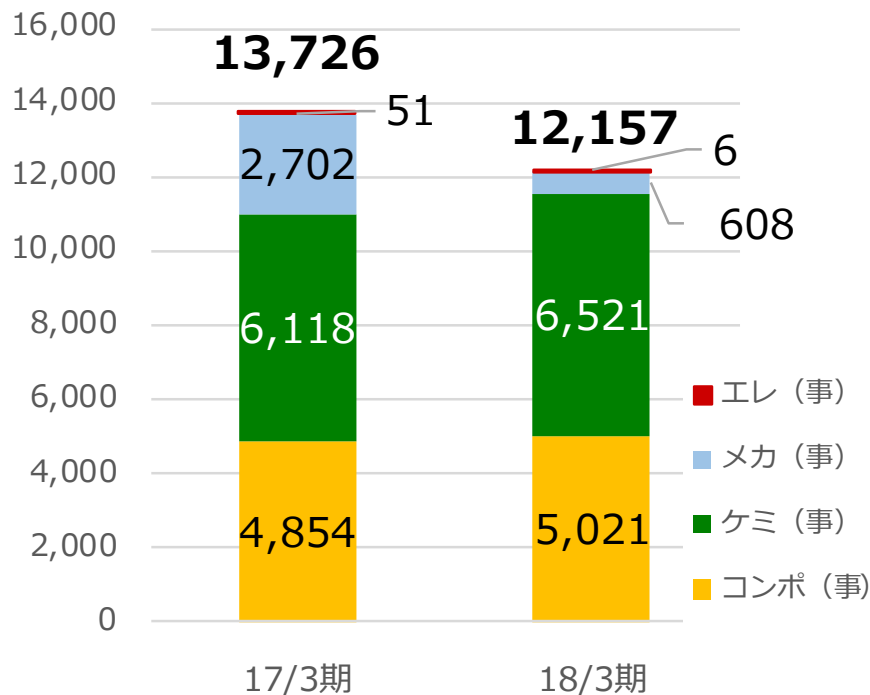


- エレ (事) : 無線基地局用電源が全国的に伸長したこと等により増収増益
- メカ (事) : MDBが大幅減したこと等により減収減益
- ケミ (事) : 主力の自動車関連分野を中心に堅調に推移し増収増益
- コンポ (事) : 車載部品関係が好調に推移し事務機器関連も大幅に伸長し増収増益

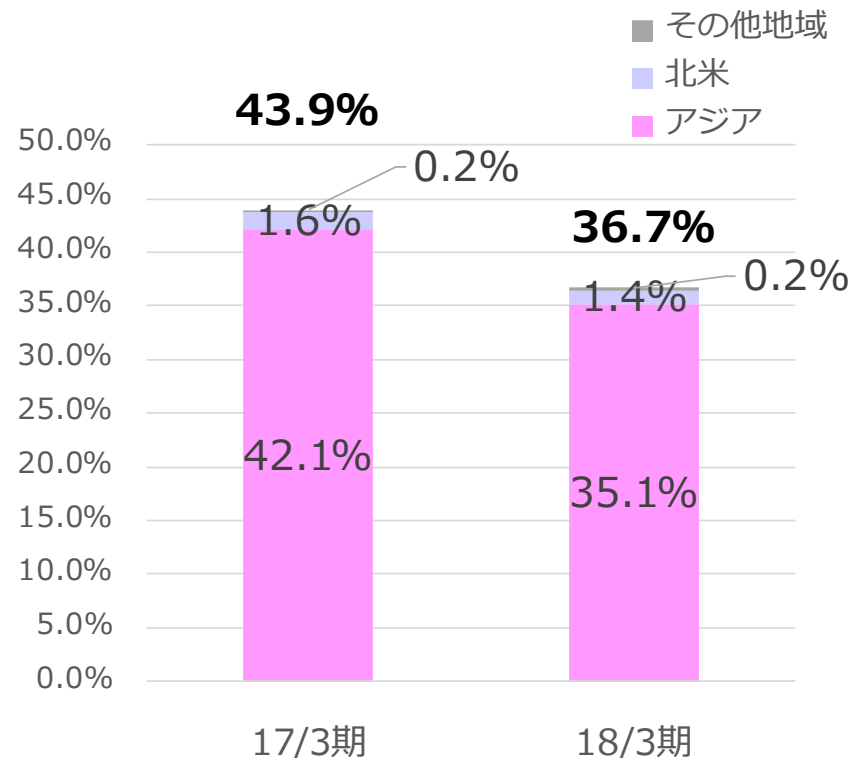
海外顧客向け連結売上高（セグメント別・地域別）

セグメント別

(単位：百万円)



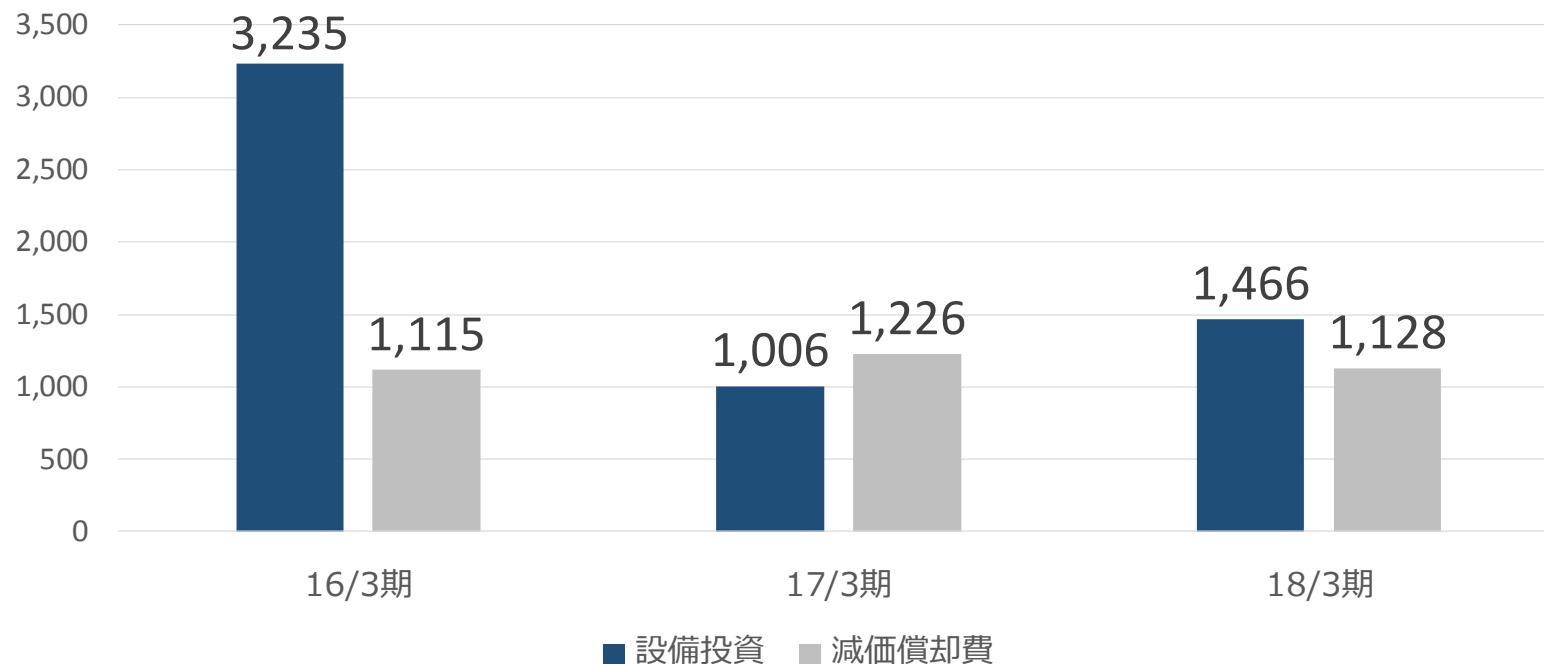
地域別



➤ ケミトロンクス事業及びコンポーネント事業の海外顧客向け売上高は増加したものの、メカトロンクス事業のMDB売上が落ち込み、海外顧客向け売上高大幅減少

設備投資、減価償却費

(単位：百万円)



➤ **16/3期 設備投資増加の主な要因**

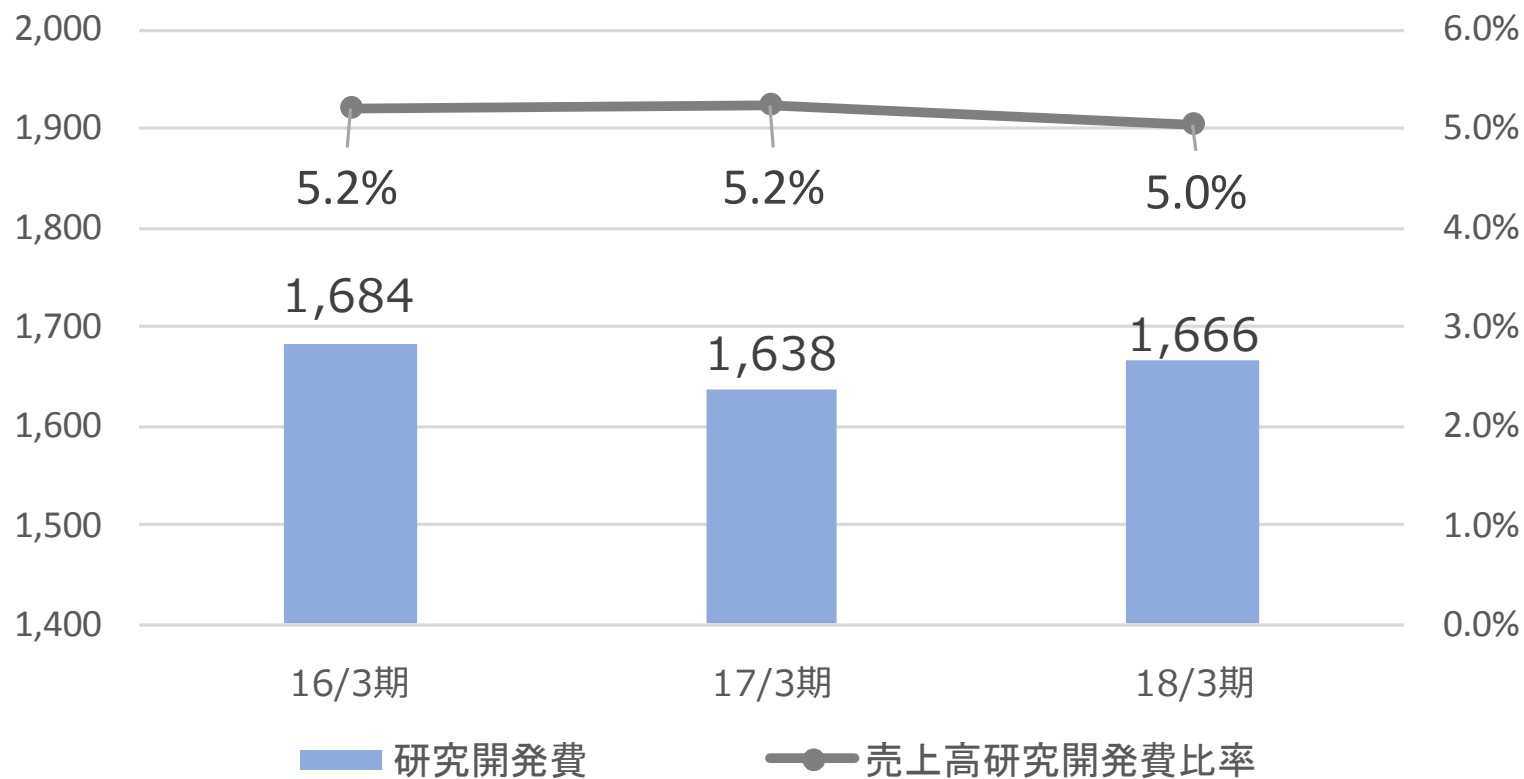
- ・ 本社移転に伴う新棟建設投資

➤ **18/3期 設備投資増加の主な要因**

- ・ 連結子会社東邦化研工業（株）の本社移転に伴う新棟建設投資
- ・ コンポーネント事業の製造装置増強投資

研究開発費、売上高研究開発費比率

(単位：百万円)



- 18/3期研究開発費は前期比並みに推移
- 売上高増加に伴い、売上高研究開発費比率は0.2%低下

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	17/3期 期末	18/3期 期末	前期末 増減額
流動資産合計	25,427	27,274	1,846
固定資産合計	16,830	18,246	1,416
資産合計	42,258	45,520	3,262
流動負債合計	13,496	15,869	2,373
固定負債合計	5,069	4,329	▲ 740
負債合計	18,565	20,198	1,632
純資産合計	23,692	25,322	1,629
負債純資産合計	42,258	45,520	3,262
自己資本比率	50.2%	49.7%	▲ 0.5%

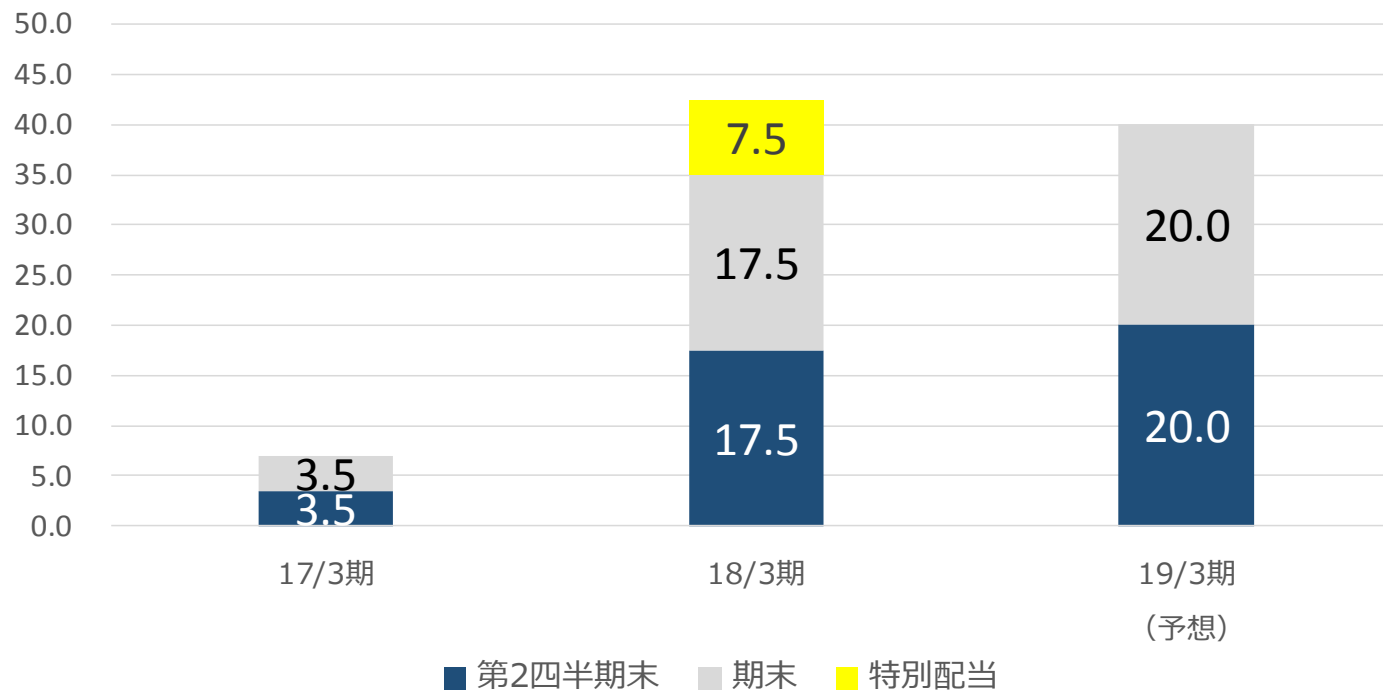
連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	17/3期	18/3期	前期 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,200	992	▲ 208
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,206	▲ 2,075	▲ 868
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 191	491	682
現金及び現金同等物の増減額(▲減少)	▲ 456	▲ 502	▲ 46
現金及び現金同等物の期末残高	5,578	5,075	▲ 502

配当の状況

(単位：円)



- 18/3期の10月1日を効力発生日として、普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
- 18/3期及び19/3期の配当金は、株式併合を考慮した金額
- 18/3期の1株当たり期末配当金25.0円の内訳は、普通配当：17.5円 特別配当：7.5円

連結業績予想

(単位：百万円)

	18/3期 実績	19/3期 予想	前期 増減率
売上高	33,154	40,000	20.6%
営業利益	1,822	3,000	64.6%
経常利益	1,908	3,000	57.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	868	2,000	130.3%

※連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合あり